

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	むくむくの森 そら		
○保護者評価実施期間	令和8年2月6日		～ 令和8年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	令和8年2月6日		～ 令和8年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	SSTの知識を深め、日常生活に活用している。	SSTの知識を職員が学び、子ども達が学びやすいように、興味を持ちやすいように工夫をしていった。 ただSSTの時間に子ども達が学んだだけではなく、日常生活の中でも取り入れ、職員が振り返りをする時間を設けた。	事前にSSTの内容、目標を伝えていき、フォローする職員の動きなど細やかなことも情報共有しながら全員が主体となって動けるようにする。
2	個別支援をする時に個室を使える。	気持ちを落ち着かない時、集団の中で宿題に集中ができない時等に個室を使用することができる。 個室を使用することで、集中して宿題に取り組めた。 子どもから「気持ちを落ち着かせたいから、個室に行きたい」と職員に伝えることができ、子どもの安心にも繋がっている。	個室が使用していることがあるので、個室を使用する前に使用しているかどうか確認をする。
3	児童発達支援が併設している。	児童発達支援から放課後等デイサービスへ利用することで、途切れない支援をすることができる。 移行する時にも情報共有がスムーズにでき、保護者や子どもの安心感にも繋がっている。	移行前に、支援の継続ができるように情報共有を全職員へ行えるように記録を残していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	全職員への情報共有が大まかになっていることがある。	学校の送迎時間や休憩時間の関係で、全員がミーティングに参加できないことがある。 活動前のタイムスケジュールや職員がどう動くか等の細かな情報共有が個別に伝えることが多く、時間がかかってしまうことが多い。 活動の詳細を事前に決めて、早い段階から情報共有していく。	活動を決めながら詳細も決めていき、事前に情報共有をしていく。
2	運動療育の知識を実践で生かす。	運動療育の知識を職員が学んでいるが、実践で生かすまで知識を自分自身ものにしていないことがある。	準備段階で、職員同士がデモンストレーションをして知識を実践で活かせるように経験を積んでいく。 また、学んだ知識を全職員が共有して意識をもてるようにする。
3	保護者の協力を得ながら送迎をおこなっている。	自宅や学校送迎等、遠い場合や送迎が重なって難しい場合には保護者に協力してもらい、保護者がむくむくに送迎をしてもらっている。保護者が送迎が難しい時もあるので、むくむくで行けるように努力していく。	車両や人員配置ができるように工夫をおこなえるように努める。 保護者の負担がないように送迎ができる時には早い段階で保護者に行けることを伝えていく。